偲郷（しきょう）

須木中学校通信　第１７号

平成２７年１０月２２日発行　文責　寺原

確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち、
未来をたくましく生き抜く生徒の育成

「当たり前」再考・・

冬の訪れが感じられる季節になりました。子どもに、「当たり前のことを当たり前にできるようになろう」と呼びかけて、あっという間にもう半年以上過ぎました。

「はしたない」という言葉がありますね。礼儀にはずれたり、品格に欠けるなど、人として見苦しいことを指して言うことが多いようです。

かつての日本人は、「はしたない」ことを恥として嫌い、厳しく戒めあったといいます。今はこの言葉自体を使うことも、使う人も減ったような気がします。

桜井よしこ氏（ジャーナリスト）はその著書の中で、「人前での化粧はなぜだめなのか。簡単明瞭です。はしたないからです。これ自体が、日本人の基本的な価値観の一つです。」と明言しています。

理屈ではない、感覚みたいなものですね。言葉を換えると、「説明する必要もない、当たり前のこと」となるのでしょう。

あいさつを心を込めて、明るく礼儀正しくすること。掃除を無言ですること。授業を、背筋を伸ばし集中して受けること。地べたや廊下にペタンと座り込まないこと。目上の人に礼儀正しく接すること。まだまだあるでしょう。

これらのことは、すべて「当たり前」のこと。そこには、私たちに受け継がれてきた、日本人の価値観が流れているのです。

そう考えると、「当たり前のことができる」って、日本人としてとてもすばらしいことだと思えてきませんか。

≪ふるさと講演会を行いました≫

１０月２日に「ふるさと講演会」を行いました。これは、須木地区の方をお招きして、子どもたちにお話をしていただき、須木のことを知り、ふるさとを愛する心を育て、須木に貢献しようとする気持ちを育てる機会にするために行ったものです。

第１回目の講師は、**山川　伸**　様とプレゼンを担当して下さいました、**酒匂　重彰**　様に来ていただきました。

演題は「須木の祭りと地域活性化～これからの須木地区の担い手として～」でした。

他地域ではあまり例がない、地域が一体となって行う「すき納涼花火大会」の実行委員長を３年にわたって務めて来られた経験をもとに、「外からふるさと須木を見て、改めて須木の良さを認識する中で、地域活性化のために自分にできることはないか」という視点で、分かりやすいプレゼンとともに話して下さいました。お話の中で「アイディアを考え続け、考えたらアクションおこすことが大事」「現在あるものを活用する」など、地域活性化の実現に向けた思いにあふれた言葉をたくさん聞くことができました。

子どもたちも全員感想を書きましたが、その内容から自分のこととととらえている様子がうかがえました。

≪本物の迫力～音楽鑑賞教室に参加して≫

１０月５日に笛水小中学校で、「鑑賞教室」に参加しました。本物に触れる機会の一つとして、文化祭前にどうしてもやりたかった行事でした。

演奏して下さいましたのは、大坂からみえられた「日本センチュリー交響楽団」で、５０人以上の本格的な編制の楽団でした。

演奏に合わせて生徒が歌ったり、手拍子で演奏に参加したりすることを交えながら、５曲のすばらしい、迫力のある交響曲の演奏を聴くことができました。

バス移動が長く大変だったかもしれませんが、「芸術の秋」の午後、滅多に聴くことのできない本物の迫力を体で感じてくれたのではないかと思います。